

誰かにあわせるのではなく “あなたが選べる”

新しいスタイルの居場所・学びの場を目指して
～高山市学びの多様化教室「にじ色」の取組～

高山市教育委員会 学校教育課

1 はじめに

令和6年4月、登校することはできないが「学力」を身につけたいと願う生徒の居場所として、学びの多様化教室「にじ色」が、高山市立宮中学校の分教室として開室した。

不登校児童生徒数が全国的に増加する中、高山市の不登校児童生徒の出現率は、全国平均を下回ってはいるものの、増加傾向にある。これまでも高山市は、欠席が続き登校できない児童生徒に対し、社会的自立に向かう手立てのひとつとして、一之宮町に適応指導教室「であい塾」を設置し支援してきた。生活習慣を養う「であい塾」に対し、「にじ色」は学習習慣を養いながら「学力」を身につけたい生徒に対する居場所である。この「にじ色」という居場所ができたことは、飛騨地区の生徒にとって、自分にあった居場所の選択肢が増えたといえる。

2 「にじ色」の特色

(1) 「にじ色」の位置的環境

高山市の中心から離れた一之宮町は、豊かな自然に恵まれた地域である。この一之宮町の支所内に教育研究所がある。その半径100メートル以内に保育園、小学校、中学校、「であい塾」があり、様々な連携をとりやすい地域である。本校の生徒会は、「にじ色」の生徒と一緒にできることについて考え、能登への応援メッセージの作成を呼びかけ、合作した。

また平成20年に移設された「であい塾」のあるこの地域は、不登校に対する理解が深い。地域のボランティアの方が、「であい塾」の児童生徒を招いて、毎月昼食会を開き、温かい料理とふれあい児童生徒の心を元気づけてきた。その「であい塾」の同建物内に併設して「にじ色」を設置した。



「にじ色スタートセレモニー」の後、地域の餅つきによる歓迎の餅つき

(2) 学びの特徴

①教育課程についての時間数

不登校の社会的自立を願い、標準時間数よりゆとりのある学習内容と週課程を組んでいる。標準時間1015時間の内容を770時間に削減するのではなく、あくまでも体験活動を含め、同等以上の内容を個別最適な支援の工夫により770時間内で実施している。



ゼミ：サックス



プレジャー：野菜栽培

②独自の教科

ゼミ	自分の得意なこと、興味・関心があることなど、自らのテーマを設定し取り組み、個の特性を伸ばし、自己肯定感を醸成する。
プレジャー	野菜栽培・溪流体験・郷土料理づくりなど、一之宮の教育資源を活かし、異年齢集団で教科横断的に学習を進め、社会参画の素地を養う。
ボイジャー	その日の自分の状況に応じた朝のウォーミングアップの時間とし、SST等を取り入れ内面的自覚を図りながら、自分のよさに気づき、自己肯定感を育むきっかけをつくらせたり、社会的自立に係る力を育成したりする。

評価については、学習指導要領に定める目標と合致する内容であれば、必要に応じて各教科の評価評定に反映することができる。

3 生徒の様子


(1) 出席の様子

各月の出席率 (%)	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月
出席 (登校)	81.4	77.5	78.6	78.8	78.5	78.4	78.4
出席扱い (オンライン)	86.5	86.7	88.6	89.1	88.8	88.8	89.4

- ・毎月の出席率が安定し、全欠席の生徒はいない。
- ・欠席が5日ほど続いた生徒がいたが、再び登校し、長期欠席になることはなかった。
- ・登校できない日にはオンライン授業を希望し、次の日には登校する姿が見られた。

(2) アンケート (前期末) の結果と考察

選択肢の中から、生徒が選んだ上位の回答

1	日常学習の中で「楽しい」と感じるのはどんな活動ですか。
	①ゼミ ②プレジャー (釣り) ③数学
2	日常生活の中で、「楽しい」と感じるのはどんな活動ですか。
	①仲間との会話 ②昼食 ③スタッフとの会話
3	「にじ色」の独自のシステムの中で「いいな」「うれしいな」と思うことは何ですか。
	①勉強がわかる・できるようになるまで教えてもらえる
	②リフレッシュデーがある (独自の休業日)
	③ゼミの内容が自分で決められる 朝のスタートが遅い
4	④勉強の仕方を自分で選べる
	次のことについて「そう思う」のはどれくらいですか。 ※100点中
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業がわかりやすい 86.4点 ・学力がついてきた 65.7点 ・仲間とともに活動するのは楽しい 90.8点 ・スタッフは自分のことを大切にしてくれている 90.7点 ・「にじ色」に入室してよかった 90.0点 ・悩んでいる友達がいたら、「にじ色」をすすめる 82.9点
	

- ・人と関わることが苦手な生徒ばかりであったが、人と関わることに楽しさを感じている。
- ・授業が分かること、できるようになることに、生徒は喜びを感じながら学んでいる。
- ・自己決定できる機会を生徒は求めている。

4 今後の課題

(1) 多様性への対応

一人ひとりが学び方について自己決定することが生徒の達成感や学習の成果となって表れている。



わたりの授業形態

今後、生徒の要望と教師の働き方の調整については、検討していく必要がある。



オンライン学習

(2) 進路実現へのアプローチ

卒業後、それぞれ選んだ進路先で自立していくことを考えた時、少しずつ多人数に対応できる力をつけていく必要がある。現在も希望する生徒については、本校で授業や実力テストを受ける機会を設けている。今後も進路実現を見据え、生徒、保護者と相談しながら検討していく必要がある。

5 おわりに

自分にとって安心できる居場所があれば、人とつながり生き生きと活動に取り組むことができることを「にじ色」の生徒は証明している。今後、高山市のそれぞれの学校が児童生徒にとって安心できる居場所になるよう、「にじ色」の取組から発信できることを明らかにしていく。